第58回洗浄に関するシンポジウム

主　催　日本油化学会　洗浄･洗剤部会
協　賛　日本家政学会、繊維学会、日本繊維製品消費科学会、色材協会

日　時　2026 年 10 月 1 日（木）～ 2 日（金）
会　場　タワーホール船堀　５階小ホール〔〒134-0091　東京都江戸川区船堀 4-1-1〕
［ 交通 ］ 都営地下鉄新宿線「船堀」駅前　徒歩 1 分　（https://www.towerhall.jp/access/）

プログラム概要
特集「洗浄とサステナビリティ」、特集講演、一般講演、及びオリジナルレポート

参 加 費

	事前振込	当日
洗浄・洗剤部会員（不課税）	9, 000 円	10, 000 円
本会正会員*1（不課税）	10, 000 円	11, 000 円
本会法人会員*1（不課税）	12, 000 円	13, 000 円
Co-メンバー*2（課税・税込）	12, 000 円	13, 000 円
協賛学会員（課税・税込）	12, 000 円	14, 000 円
会員外一般（課税・税込）	15, 000 円	18, 000 円
本会学生会員*1（不課税）	4, 000 円	5, 000 円
会員外学生（課税・税込）	5, 000 円	6, 000 円

*1 日本油化学会　*2 Co-メンバー登録費用(1,000 円)を含む

「Ｃｏ-メンバー」のご案内
洗浄･洗剤部会では学会活動活性化の一環として「Co-メンバー」制を導入しています。シンポジウムお申込の際に「Co-メンバー」を選択頂くだけで登録が完了します。
また、Co-メンバーは本シンポジウムや当部会開催セミナー参加費の割引が適用されます。ぜひこの機会に入会をご検討ください。
なお、Co-メンバー資格は次回シンポジウムまでの 1 年間となります。自動的に翌年度の資格が更新されることはございませんので、資格の継続をご希望される場合、次回のシンポジウム申込時に、改めてお申込みください。

懇 親 会　2026 年 10 月 1 日（木）18 時 00 分より　タワーホール船堀　2 階イベントホール「瑞雲」
会費：一般 5, 000 円、学生 1, 000 円

参加申込〆切　2026 年 9 月 25 日（金）

申込方法　日本油化学会 洗浄・洗剤部会のホームページ（HP）へアクセスいただき、HP 右側の「第 58 回洗浄に関するシンポジウム　ーオリジナルレポート公募およびシンポジウムへの参加申込のお知らせー」内の【参加申込】よりお手続きをお願いいたします。

＊上記申し込みフォームでの申し込みが難しい場合には、下記問合せ先までご連絡ください。

振込〆切　2026 年 9 月 25 日（金）

振込方法　参加費は申込み締切日まで【入金の確認が行えるよう】に銀行振込にて前納してください。

当方にて振込が確認できなかった場合、振込用紙を提示していただく場合がございます。
なお納入された参加費は返金いたしかねますので、予めご了承ください。

銀行振込：　**三井住友銀行　日本橋東支店　普通預金口座　7697594**
口座名義　**日本油化学会 洗浄洗剤部会　（ﾆﾎﾝﾕｶｶﾞｸｶｲ ｾﾝｼﾞｮｳｾﾝｻﾞｲﾌﾞｶｲ）**
*カタカナでの振込先入力が必要な際にはご注意ください。

問合せ先　日本油化学会　洗浄・洗剤部会　事務局
ライオン（株）ハウスホールド研究所　渡邊 洋介（わたなべ ようすけ）
〒132-0035　東京都江戸川区平井 7-2-1　E-mail: senjou-senzai@jocs.jp

【プログラム】

■ 1日目　10月1日（木）

10:00～10:05　開会の辞

洗浄･洗剤部会長（東京家政学院大）佐々木麻紀子 氏

＜オリジナルレポート＞

10:05～10:25　食洗機使用者の実態に基づく新たな洗浄習慣の提案

（ライオン）○大島典子、五十嵐温子、高木那々夏、世ノ一さくら、神藤宏明、小倉英史

10:25～10:45　業務用食洗機洗浄剤へのポリマー型キレート剤の応用

（日本触媒）○井上聖都、中川和雄

10:45～11:05　ATR-FT/IR 法を用いたタンパク質分解酵素の洗浄評価

（東京家政大）○葛原亜起夫、西本結貴、山口郁美

11:05～11:25　柔軟剤処理がマイクロプラスチック排出に及ぼす影響

（共立女子大）○後藤純子、石田慧子

－昼食休憩　11:25～13:00（1 時間 35 分）－

＜特集講演：洗浄とサステナビリティ＞

13:00～14:00　『界面活性剤フリー乳化』と『界面活性剤フリー洗浄』

（信州大）　酒井俊郎 氏

近年、世界的な人口増加に伴い界面活性剤の需要は増加しており、現在の主要原料であるパーム油の供給のみでは、将来的な需要増加に十分対応できない可能性が指摘されている。また、社会情勢の変化を背景として植物油価格が高騰し、界面活性剤原料としてのパーム油の安定的な確保が困難となる状況も生じている。そのため、界面活性剤に依存しない新たな乳化技術・洗浄技術の開発は重要な課題である。そこで、本発表では、『界面活性剤フリー乳化』と『界面活性剤フリー洗浄』について紹介する。

－休憩　14:00～14:10（10 分）－

14:10～15:10　ライフサイクルでの水利用の環境影響を考えるウォーターフットプリント

（産業技術総合研究所）　本下晶晴 氏

水資源利用に伴う環境影響をライフサイクル全体で捉えるウォーターフットプリントについて、水不足と水質汚染の両面から代表的な評価手法を概説し、洗浄分野との関わりと活用可能性を示す。

－休憩　15:10～15:20（10 分）－

15:20～16:20　微細藻類を用いた油脂生産技術の開発 ～ラウリン系油脂高生産株の創製と培養検討～

（花王）　尾﨑達郎 氏

界面活性剤等の原料であるラウリン系油脂の新規供給源の開発を目指し、藻類を用いた油脂生産技術の開発を進めている。本講演では脂肪酸組成の改変等を目的とした藻類の分子育種や育種株の培養検討について紹介する。

－休憩　16:20～16:30（10 分）－

16:30～17:50　ポスターセッション ／4 階 402 会議室

18:00～　　懇親会 ／2 階イベントホール「瑞雲」

2 日目　10 月 2 日（金）

＜オリジナルレポート＞

10:00～10:20　促進酸化による汚れ落とし技術

（日立製作所[*1]、日立グローバルライフソリューションズ[*2]）〇藤森正成[*1]、林正二[*2]

10:20～10:40　細菌膜除去に対するオゾンウルトラファインバブル混合の効果

（新潟大）〇河合晃弥、牛田晃臣

10:40～11:00　洗浄に関連する研究・技術情報収集における AI の利用価値

（横浜国立大）大矢勝

－休憩　11:00～11:10（10 分）－

＜一般講演＞

11:10～12:10　微細気泡を用いた洗浄・殺菌

（日本獣医生命科学大）小林史幸 氏

二酸化炭素の微細気泡と次亜塩素酸ナトリウム溶液の併用による殺菌および電解水の併用による農薬除去について紹介する。加えて、各種気体の微細気泡による大腸菌バイオフィルムの除去について報告する。

－昼食休憩　12:10～13:10（1 時間）－

13:10～14:10　プラズマ表面洗浄技術とその応用：電子部品製造を起点とした展開

（サーフクリーン）加藤聖隆 氏

真空および大気圧プラズマを利用したドライプロセス洗浄技術について、電子部品製造工程（デスミア・デスカム・濡れ性改善）への適用事例を起点に、近年の応用展開と従来ウェット洗浄との比較を述べる。

－休憩　14:10～14:20（10 分）－

＜オリジナルレポート＞

14:20～14:40　洗浄剤設計に向けた界面活性剤構造-洗浄性能データベースの構築

（産業技術総合研究所）金崎悠

14:40～15:00　硬質表面用親水化カチオンポリマーを応用した洗浄、速乾および抗菌力の向上

（クラリアントジャパン）〇早瀬真邑、飯間雄介、堀内武士

15:00～15:20　衣料用洗剤に使用可能な環境負荷の低い分散剤

（ダウ日本グループ）ビスワス シュヴェンドゥ

15:20～15:40　新規クリーニングセルラーゼによる衣服の白さ・鮮やかさの維持

（ノボネシスジャパン）〇孫 雨迪、宮本洋輔

15:40～15:45　閉会の辞

洗浄･洗剤部会 副部会長（文化学園大）角田薫 氏

＜ポスターセッション＞　1 日目 10 月 1 日(木) 16:30～17:50 自由討論形式 ／4 階 402 会議室

［コアタイム］前半 : 16:30～17:10（奇数番号）、後半 : 17:10～17:50（偶数番号）

1. 気液界面における界面活性剤の配向に及ぼすアルコール添加の影響
（文化学園大）〇HU XIAO、米山雄二

2. 食器洗浄における洗剤挙動に着目した物性的評価
（花王）〇細野 拓生、大村 亮介、田和 弘輔、吉田 光佑、中島 弘樹

3. 古着モデル汚れに対する家庭洗濯条件での洗浄挙動評価
（東京家政学院大）佐々木麻紀子

4. 大学生の衣料用洗剤・衣類洗濯に関する認知構造の把握
（安田女子大）福田典子

5. 加圧溶解式により生成したファインバブル水のすすぎ性能
（大阪産業大[*1]、奈良女子大[*2]）〇田川由美子[*1]、後藤景子[*2]

6. ファインバブル水を用いた人工皮膚付着汚れの流水洗浄
（新潟大）〇木村凛々子、牛田晃臣

7. 抗菌/抗カビブースト効果を持つポリマー
（クラリアントジャパン）〇早瀬真邑、飯間雄介、堀内武士

8. 洗濯のすすぎ回数削減によるマイクロプラスチックファイバー排出量の低減効果検証
（ライオン） 〇吉田瑠佳、森田遥、増田美空、大塚聡、小倉英史